

# 留 学 報 告 書

記入日:2014年9月2日



所属学部／研究科・学科／専攻	商学部商学科
留学先国	トルコ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: 中東工科大学 現地言語: Orta Doğu Teknik Üniversitesi
留学期間	2013年9月～2014年6月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	経営・経済学部経営学科
帰国年月日	2014年7月31日
明治大学卒業予定年	2015年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月下旬～2月上旬 2学期:2月下旬～6月上旬
学生数	約23,000人
創立年	1956年

留学費用項目	現地通貨	円	備考
授業料		円	
宿舍費		25万円	寮代、引越代、家具代、アパート家賃
食費		27万円	
図書費		3万円	教科書、本
学用品費		3千円	ノート、ペン等
教養娯楽費		45万円	国内旅行、国外旅行
被服費		3万円	
医療費		円	
保険費		15万円	形態:
渡航旅費		12万円	
雑費		8万円	交通費、通信費、日用品等
合計		138万円	毎月の出費は5～6万円程度

## 渡航関連

渡航経路:東京(成田)~ソウル(インチョン)~イスタンブール(アタチュルク)

渡航費用

チケットの種類 オープンチケット

往路 \_\_\_\_\_

復路 \_\_\_\_\_

合計 12万3000円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

ガイドブック:地球の歩き方 旅行会社:オールウェイズ

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

最初の1ヶ月半は寮に滞在し、その後、友人とアパートを借りた。

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数2人~3人)

3)住居を探した方法:

寮:留学先大学からの情報提供 アパート:友人からの誘い

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

中東工科大学の寮には4人部屋の場合、個室はない。アンカラのアパートの場合、3人程度でシェアすれば、少し高めに見積もっても家賃と水道光熱費・ネット込みで毎月400TL~500TL(2万円~2万5千円)で済み、個室を持つことができる。

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

特に大きな問題はなかった。何か聞きたいことや分からないことがあったときは、中東工科大学の International Cooperations Offices に尋ねた。あとは、母親、トルコ人や日本人の親友。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

アンカラ在日本大使館に連絡先を預けておく。大きなデモが起こるとき、大使館から連絡がくる。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話は、現地でトルコ人の友人に古いものを無料でもらった。スマートフォンではないため、インターネットを見れなかったが、電話とSMSを毎月1000円で利用できた。多くのカフェにWifiあり。家でもWifiをセットして、インターネットを利用した。トルコ滞在中、速度に対してあまり不満を持つことはなかった。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本で City Bank の口座を開設し、海外からでもお金を引き出せるようにした。トルコの人々はクレジットカードをよく使う。必要があったために、現地で2つの銀行の口座を開設した。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

日本食では、みそとだし。他の食品(しょうゆ、米酢など)については手に入れることができる。

## 進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input checked="" type="checkbox"/> その他: 起業又は就職
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
21 単位(ECTS:40)	<input checked="" type="checkbox"/> 6 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:    )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Analysis of Turkish-EU Relations	
科目設置学部・研究科	Department of Business Administration
履修期間	9月～2月
単位数	3(ECTS:6)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	授業開始後 10 分～15 分程度、1 週間間に起きたニュースについてトルコ語でディスカッションを行う。(トルコ語の分からない留学生は時間をもてあますことになる。)その後、教授から 30 分から 1 時間程度の講義があり、残り時間は授業に関するピック、学生が気になるピックなどについてクラスでディスカッション。基本的に、終了時間の 30 分前に授業が終わる。
授業時間数	1週間に 150 分が 1 回
担当教授	Kazım Yalçınoglu
授業内容	EEC から現在の EU までの変遷、EU の運営体制(意思決定の方法や政策など)、EU の抱える問題、トルコと EU の結びつき、未来の EU の体制などについて講義が行われ、クラスのメンバーでディスカッションを行う。
試験・課題など	出席、授業中の積極的な発言が求められる。中間テスト 1 回、期末テスト。
感想を自由記入	教授が気さくで、リラックスしていて、情熱的である点がこの授業を取ろうと決めた理由である。学生には自発的な学習(自習)を求め、厳格で大変な課題は出されない。履修者の中には、10 人程度のヨーロッパから来た留学生がおり、彼らとのディスカッションを通して、EU について近い距離でリアルで現在進行中の出来事として考えることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Entrepreneurship			
科目設置学部・研究科	Department of Business Administration		
履修期間	9月～2月		
単位数	3(ECTS:6)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	教授による講義は数回だけ。その他は、トルコを代表する起業家やスタートアップコミュニティの有名な人によるゲストスピーチまたは課題であるプレゼンテーション発表。		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Adil ORAN		
授業内容	"Lean Startup"や"Business Model Canvas"という本の考え方をベースとした講義およびワークショップが行われ、課題が出される。加えて、トルコを代表する起業家やスタートアップコミュニティの有名な人によるゲストスピーチがある。		
試験・課題など	ビジネスチャンスに繋がる身の回りの問題報告(毎週)。ゲストスピーチの要約の提出。個人による1分間ビジネスアイデア発表、グループ作り、ニーズ調査とその結果のプレゼンテーション、最終ビジネスプランの作成と発表。起業家インタビューとレポート提出。筆記の期末テスト。		
感想を自由記入	教授は、トルコのスタートアップ界では非常に有名な人物である。英語が堪能であり、パワフルで明るい。ビジネスは1人ではできないということで興味あるビジネスアイデアをもとに4、5人のグループをつくり、多くの課題をそのグループでこなす。トルコ人とイギリス人と共同作業を行ったことは、困難も伴ったが貴重な体験であった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Marketing Research			
科目設置学部・研究科	Department of Business Administration		
履修期間	9月～2月		
単位数	3(ECTS:6)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	65分講義のあと、10分から20分休憩があり、再び講義。		
授業時間数	1週間に150分が1回		
担当教授	Ugur Çaglı		
授業内容	Marketing Researchを行うトルコ企業の概要、リサーチの全体像とプロセス、リサーチの種類(原因究明的リサーチ、実験的リサーチ)、アンケートのデザインの種類と作り方、質問の設定方法などを学ぶ。そして、実際に大学内で興味あるテーマに沿ってリサーチを行い、レポートを書く。		
試験・課題など	中間テスト1回、期末テスト。グループでリサーチの実行とレポートの執筆・提出。		
感想を自由記入	授業では、ディスカッションがあまりない。教授による講義が中心で少し残念だった。しかし、その講義の内容はほとんどすべて実際に作成するマーケティング調査に応用されるものであり、自分で理解を深めれば深めるほど調査の結果に反映されるため興味深かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Physics for Non-Scientists 1	
科目設置学部・研究科	Department of Physics
履修期間	9月～2月
単位数	3(ECTS:5)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	授業の最初に毎回、前回の授業の内容の理解を確認する小テストがある。その後は講義のみ。途中で10分～15分間の休憩あり。
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Dale Ross
授業内容	物の単位、ニュートンの運動法則、角運動量、振動など基礎的な物理の理論や法則、現象などを勉強する。
試験・課題など	小テスト、中間テスト、期末テスト。課題はないが、小テストで点を取るために普段から自習を求められる。
感想を自由記入	先生は、アメリカ人であり、本当に物理が好きな先生である。授業の内容にあわせて実際にさまざまな道具を用いて実験を披露するのが興味深い。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Managing Technology and Innovation	
科目設置学部・研究科	Department of Business
履修期間	2月～6月
単位数	3(ECTS:6)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	基本的に講義。他には、あらかじめ指定されたビジネスに関する論文を読み、1人がプレゼンテーションで内容の要約を伝え、クラス全員でディスカッションを行う。また、“Back Bay Battery”というシミュレーションをグループで行い、その成果を発表する。
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Nazli Wasti Pamuksuz
授業内容	イノベーションの種類、イノベーションの生まれ方、特許とイノベーション、イノベーションを起こす組織のあり方などについて勉強する。
試験・課題など	宿題、中間テスト、シミュレーション結果、期末課題(レポート)
感想を自由記入	私が受講したときは、学生が全部で10人前後の少数クラスであり、教室はうるさ過ぎず静か過ぎずちょうどよかった。教授は明るく、はきはきとした女性である。毎週、小さな課題が出されるため、普段から自習することが要求された。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Finance	
科目設置学部・研究科	Department of Business Administration
履修期間	2月～6月
単位数	3(ECTS:6)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	基本的に講義である。授業の終わりに事前の予告のない小テストが出ることもある。課題が出た後は、課題の解答や解き方を授業で説明する。
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Hande Ayaydin
授業内容	財務諸表の分析、貨幣の時間的価値、ディスカウント・キャッシュフロー、金利、社債評価、証券市場と株価評価、リスクとリターン評価、設備投資決定の基準とその評価、資本コスト、資本構造、配当などについて学ぶ。
試験・課題など	小テスト、中間テスト×2、中間課題×2、期末テスト、期末課題
感想を自由記入	ファイナンスの基本的な知識、考え方の多くを15週で学ぶ必要があるため、授業の進行は速く、課題の量も多く、大変であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Consumer Behavior	
科目設置学部・研究科	Department of Business Administration
履修期間	2月～6月
単位数	3(ECTS:6)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	基本的に講義。グループプレゼンテーションが課題の1つで、発表は教授の講義の前に行われる。各章ごとにレポート提出あり。
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Eminegul Karababa
授業内容	消費者とマーケットプレイス、個人としての消費、意思決定者としての消費、消費と社会、消費と文化について学ぶ
試験・課題など	小レポート、グループプレゼンテーション、中間テスト、期末課題(グループエッセイ)
感想を自由記入	学生は20人ほどいたが、あまり発言に積極的ではなく、教授からの一方的な講義になってしまい、あまり刺激がなかった。授業で扱うものが商品に対する印象、広告のイメージの背景にある意味、消費に至るまでのプロセスなど非常に抽象的であるため、きっちりとした答えの出る授業ではない。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Physics for Non-Scientists 2	
科目設置学部・研究科	Department of Physics
履修期間	2月～6月
単位数	3(ECTS:5)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Physics for Non-Scientists 1と同じ
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Dale Ross
授業内容	電荷と電場、電位、静電気、静電容量、電流、抵抗、磁場、光などについて学ぶ。
試験・課題など	小テスト、期末テスト
感想を自由記入	Physics for Non-Scientists 1と同じ。

留学に関するタイムチャート
---------------

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2013年 1月～3月	トルコの政治、経済、歴史に関する本、イスラムに関する本、トルコ周辺諸国（イスラエル、イラン、アラブ諸国、ヨーロッパ）に関する本を読み、知識を蓄える。
4月～7月	航空券の購入。ビザの取得。都内で受講できるトルコ語講座を探し始める。7月から週1回×8週間、新宿のトルコ文化センターでトルコ語講座を受講する。
8月～9月	東京外国語大学のトルコ語を学ぶ学生たちが主催している「日本トルコ学生会議」に参加する。 留学開始。留学生向けオリエンテーション、授業選択、授業開始。
10月～12月	クルバン・バイラム（犠牲祭）の際に、トルコ人家族のもとにホームステイ。アンカラで行われたコスプレイベントの見学。中間テスト。ハロウィンパーティー。日本大使館主催忘年会。トルコ流クリスマス＆年越し。
2014年 1月～3月	日本大使館主催新年会。期末試験。 国内・国外旅行（黒海沿岸地域、ロシア）。後期開始。
4月～7月	中東工科大学フェスティバル。中間テスト。期末テスト。帰国準備および友人たちに別れの挨拶。 国内・国外旅行（エーゲ海沿岸地域、トルコ東部、イラン、ヨーロッパ、ロシア）。日本帰国。
8月～9月	
10月～12月	
2015年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	<p>私は、もともと投資や起業により社会に貢献できるような人になりたいという夢を持っており、新しいビジネスの種子を見つけるためにも、日本とは異なる環境に身を置いてみたいと考えていました。それが、留学を目指そうと決めた理由です。</p>
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	<p>2014年の1月(明治大学からの交換留学生としての推薦決定)から5月末(中東工科大学による留学の公式承認)までは、トルコの歴史、経済、ビジネスに関する本、イスラムに関する本、トルコ周辺諸国(イスラエル、イラン、アラブ諸国、ヨーロッパ)に関する本を読み、知識を蓄えることに努めました。あと、トルコに進出している日系企業についても調べました。</p> <p>6月の頭から、ビザの申請、航空券の購入をすぐに行いました。そして、都内で行われているトルコ語講座を探し始めました。まず、航空券は、オープンチケットで往復のものを12万3千円ほどで購入しました。そして、原宿にあるトルコ大使館に行き、必要な書類を揃え、ビザの申請をしました。1週間後にビザを取ることができます。6月末に、新宿にあるトルコ文化センターで週1回×8週間のトルコ語講座を申し込み、7月と8月とその講座を受講し、トルコ語を勉強しました。</p> <p>最後に留学前の準備として、トルコ人と関わってみたいというのがありました。そこで、東京外国語大学のトルコ語を学ぶ学生たちによって毎年行われている「日本トルコ学生会議」に参加することにしました。開催期間は8月の初旬の1週間ほどです。トルコの最も優秀な国立大学の1つであるボアジチ大学の学生と観光やディスカッションなどを行います。ここで会うことのできたトルコ人の学生とは、留学にトルコに行ったときもよく会い、日本に帰ってきた今でも仲良くしています。</p> <p>もう少し準備しておけばよかったと思うことは、トルコ語の勉強です。私は出発前に8週間×週1回のトルコ講座を受講しました。あと2、3ヶ月ほど長く、計4、5ヶ月間くらい勉強できれば、もっとスムーズにトルコに入ることができたり、言語の壁による不安やストレスを小さくできたと思います。</p>
この留学先を選んだ理由	<p>商学を学ぶ私がトルコに興味を抱いた理由として、(1)トルコが経済的に「新興国」に属する国であり、先進国である日本とは異なる経済状況およびビジネス環境を抱えていること、(2)留学先としてメジャーではなく、また日本人の数も比較的少なく、トルコにビジネスのチャンスを見出す機会があることの2つがありました。また、ヨーロッパとアジアを結ぶ点にあるトルコの地理的、歴史的な位置も魅力的でした。しかし、留学先を決める上で何よりも重要だったのは中東工科大学という環境でした。</p> <p>中東工科大学は、トルコの最も優秀な大学の1つであり、トルコ全国から高い志を持った学生が集まると予想していました。そのような新興国の最も優れた大学を実際に見て、異なるバックグラウンドを持つ学生たちと切磋琢磨するというのも大きなねらいの1つでした。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>中東工科大学のキャンパスは、緑豊かで広大です。キャンパス内には、運動施設、憩いのスペース、そして、数多くのレストランや売店があり、またショッピングセンターもあり、それは1つの町とも捉えることができます。トルコは晴れの日が多く、湿度が低く、日光が美しいため、キャンパスを歩いているだけでピクニックをしているような素敵な心地になります。芝生に座って、友達とでも1人でも1〜2リラのチャイを買って飲んでのんびりしていると勉強の時間を忘れてしまいそうになるため、注意が必要です。</p> <p>トルコはイスラム教の国でもあり保守的で宗教の教えに忠実な人も多いですが、中東工科大学の学生のイメージは、男女問わず、社交的でフレンドリーです。トルコではどこでも誰でも当たり前のことですが、困ったことがあったとき、知らない人・学生に尋ねても助けようとしてくれます。突然、話しかけても応答してくれることが多く、そのまま仲良くなったり、会話を楽しめたりします。学生は全部で約2万3千人おり、そのうち2000人が留学生であるため、約10人に1人は、ヨーロッパ、トルコ周辺諸国、アラブ諸国、中央アジア、アフリカ、アメリカ等の海外から来ている学生になります。</p> <p>また、社交的な人が多いためか、サークルや大学のスポーツチームの活動が盛んだったり、大学のフェスティバルがあったり、大きなパーティーも学内外で行われたりします。このような遊びや企画で、勉強で疲れたときにリフレッシュすることができると思います。</p> <p>最後に、1つ特徴を挙げるとすれば、政治活動に積極的であるということです。大きく分ければ、世俗派と宗教的保守派の2つがありますが、そこに、クルド人、社会主義、トルコ建国者のアタテュルクの意志、様々な要因が政治を動かしています。中東工科大学のスタジアムには「革命」と大きく書かれていることから想像できるように、政府に対してデモ活動を行う学生が多くなります。それに加え、学内には各々の政治的関心にもとづくグループが数十形成されてもおり、声高に何かを主張する学生たちもいます。(基本的にトルコ語であるため、トルコ語が分からなければ何を言っているか分からないです。)</p>



寮の雰囲気	<p>寮のタイプは、まず大きく大学所属の寮と、民間企業運営の寮に分けられます。どちらも大学キャンパス内にありますが、民間企業の寮に比べて、大学の寮の方が約 400 リラ(2 万円)ほど安いです。しかし、民間企業の寮の方がきれいな感じがします。私は民間企業の寮(4 人部屋)に滞在しましたが、最初の 1 ヶ月半でキャンパス外のアパートにトルコ人の友人と引越しました。なぜなら、どの寮でも 4 人部屋では個室がないからです。550 リラも払っているのに1つの部屋に4つの机と4つのベットがあるという状況はあまり快適なものではありませんでした。それなら、大学近くのアパートに 3 人で引越して、家賃(840リラくらい)を3人で割り、個室を得る方が経済的であり、プライベートを確保できるため快適です。掃除や水道光熱費の管理などを自分で行う必要がありますが、トルコの生活がどのようなものであるか知ることができたり、ホームパーティーを開いたりできるため、アパートに住んでみることを私はお勧めします。</p>
交友関係	<p>中東工科大学には ESN(Erasmus Student Network)という留学生の生活を支援する学生グループがあり、1 年未満の短期留学生はまずこのグループに入ります。大学開始前にオリエンテーションがあり、最初にこれらの留学生たちと交流することができます。私は、サッカーとストリートダンスを習ったことがあり、ときどき彼らと一緒にサッカーをしたり、クラブやバーに出かけて音楽やダンスを楽しんだりしました。また、クラスでは、隣に座った人に話しかけたり、授業の課題であるグループワークを行ったりすることで他の人と友好的な関係を築くことができました。他には、私は 1 つのサークルに長く所属しなかったため知り合い程度におさまりましたが、サークル活動を通すことで友人を作ること十分に可能だと思います。</p> <p>また、アンカラには 7~10 人程度の日本人留学生がおり(トルコ語の語学学校に通う人を含めるともう少しいる)、彼らとときどき会い、情報を交換していました。また日本大使館や土日基金センターがあったり、日系企業も数社あるため、日本人の公務員の方や会社員の方との交流もありました。</p> <p>トルコで出会った友人たちとはいろいろなことを楽しみましたが、エラスムス留学生およびトルコ人学生たちと共にに行ったクッキングパーティーは今でもよい思い出です。日本の料理を提供する際には、日本から持ってきていた道具や食材を利用して、巻き寿司、焼き鳥、鍋、抹茶プリン、羊羹などをふるまい、大盛況でした。</p>
困ったこと、大変だったこと	<p>第 1、語学力の問題です。英語とトルコ語の両方です。中東工科大学では、全ての授業が英語で行われますが、英語ネイティブの先生やヨーロッパの学生の中には、非常に速く英語を話す人がいます。その速さのレベルについていけないことがありました。その一方で、たまに非常に強い英語のアクセントを持つトルコ人の先生や友人もあり、その英語を理解するのが難しいときもありました。</p> <p>トルコ語についてですが、トルコの町中では、あまり英語は使えません。例えば、バスやタクシーの運転手、レストランで働いている人、警察官とはトルコ語で話さないといけない場合があります。トルコ語がほとんど分からなかったときは、交通機関を使い、町を移動するのに少し不安を感じました。また、授業内での発言やジョークがトルコ語で交わされることもあり、自分だけついていけないときもありました。中でもトルコ語がもつてきたらなと思ったのは、起業の授業でビジネスアイデアの学外調査をしていたときでした。アンカラの空港で働いている人、旅行者にアンケート調査や聞き取り調査を行うときは、もちろんトルコ語を使います。自分だけトルコ語が分からなかったため、この活動ではあまりグループに貢献できませんでした。しかし、言語の問題は、時間と努力の問題で解決できるものです。悔しさや困難があった方が勉強する気が起きるかもしれません。</p> <p>第 2、日常生活における習慣、考え方の違いにより起こる問題です。具体的には、(1)挨拶の方法を 1 つとっても違います。トルコでの挨拶はもちろんお辞儀ではなく、男女問わず(男性同士でも)、お互いの頬と頬とを 2 回触れさせます。これから分かるように、トルコ人の場合、人間同士の距離が近く、ボディタッチが多い、感情のストレートな表現を求められるなどの特徴があります。(2)これは人によりますが、私のルームメイトの清潔さへの配慮の無さに困りました。飲んだり食べたりした食器を放置、ゴミを放置、掃除しないなどです。私が唯一の掃除人でしたが、勉強で忙しいときは掃除する余裕もなく、その内にみるみる家が散らかり、汚くなることもありました。汚い環境でも生活することにはインドでの旅で慣れていたため大丈夫でしたが、きれい好きな人はよく人を選ぶようにしてください。他にも例はありますが、これらの問題は、個人の対応力と慣れにより、解決できたりできなかったりすると思います。</p>

<p><b>学習内容・勉強について</b></p>	<p>まず、留学先では、明治大学の卒業必要単位数を気にすることなく、好きな授業を学びたいと思っていたため、留学前になるべく多くの授業を履修しておきました。</p> <p>中東工科大学では、留学生の場合、その講義の教授からの許可があればどの講義でも履修可能です。そのため、専門の境界を越えて学ぶことができます。中東工科大学は総合大学ですが、中でもエンジニアリングが有名なため、理学系や工学系の授業を取りたいと考えていました。そうして、前期と後期で Physics for Non-scientists という物理の授業を履修しました。そして、トルコ目線から見る EU にも興味があったため、Analysis of Turkish EU Relations というビジネスよりも政治に近い授業も取りました。その他は、起業、ファイナンス、マーケティング、消費者行動論、イノベーションなど全てビジネスに関わる授業でした。</p> <p>どの授業でも学生は分からないことや質問、意見があれば積極的に手をあげて発言します。ときどき、英語の苦手なトルコ人学生がトルコ語で質問することがあったり、先生がトルコ語でジョークを言ったりします。これには困りました。トルコ語で内容が掴めないからです。その場合は、先生に英語に訳してくださいと頼めば英語で説明してもらえます。</p> <p>また、学部にもよりますが、グループワークを課題にしている授業が多くあります。起業の授業であれば、グループでアイデアの調査やビジネスプランの発表を行ったり、マーケティングやファイナンスでも、グループでレポートを書いたりすることが求められます。トルコ人やその他の国の学生とグループで活動することは日本人と協力し合うときとは違い、けんかや困難もありましたが、貴重な体験になりました。</p>
<p><b>課題・試験について</b></p>	<p>授業によりますが、基本的に中間テストと期末テストがあります。課題は、授業前の小テストのための勉強からレポート(A4×20枚程度)の提出まで大小様々です。そのレポートの完成がそのまま期末試験の結果にもなる授業もあります。私は、画一的な答えが導き出されるような課題よりも、自分の考えやロジック、テーマを表現できるような課題が好きであったため、授業の履修を決める前によくシラバスを確認してどのような課題が出るか確認しました。グループで課題に取り組むときには、メンバーの英語力、思考力、事務能力によって、労力が変わってきます。日本人ほど相手の顔色や思いを汲み取るということをしないため、はっきりと自分の考えや思いを伝えることが大切だと思います。</p>
<p><b>大学外の活動について</b></p>	<p>特にある決まった活動という活動を私はしていません。一度、アンカラの日本大使館の方に、シリア難民に関することで1時間ほどお話を伺いに行きました。大使館の方は日本人留学生の積極的な活動について話を聞いてくださり、親切に情報を提供してくださいました。その後、2人の日本人学生が難民を支援するボランティアに参加していました。その他、トルコ人の友人から、小学校に行つてトルコの子供たちに日本のことを紹介するプレゼンテーションを行ってほしいという依頼が2回あり、これを行いました。加えて、土日基金センターで日本語を教えている日本人の先生から、授業に参加して日本語を学ぶトルコ人と交流してほしいと話を聞き、何度かその授業にも参加させていただきました。</p> <p>また、大学が休みのときには、トルコ国内・国外様々な場所を旅しました。トルコの物価(特に、交通費、野菜・果物、住居費など)は安く、旅を計画しやすいです。それでいて、トルコ国内には美しい自然や場所が数多くあります。エーゲ海に沈む夕日に感動したり、海の水の透明さにはしゃいだり、雪山から夜空に広がる満天の星空を見て自分の小ささにほほえんだり、洞窟を探検したり、岩山に登り、眼下に広がる大地の無音の静けさに聞き入ったり、野菜や果物の美味しさに驚いたり、トルコの日差しの美しさにみとれたり、トルコ人の暖かなもてなしに触れたり、溢れんばかりに充実した日々を送ることができました。</p>

<b>留学を志す人へ</b>	<p>留学をすると、今まで怒ったり、嫌になったり、悔しかったりしたことのないタイミングで気分をそのように損ねたり、未知の問題に直面したり、困難や苦勞を感じたりすることがあると思います。それは、今までいた割と快適で慣れた(いろいろなことが体験的に予測できる)環境から離れ、別の環境下で自分とまわりの物事との間に、ある「ズレ」が生じているということを意味しています。嫌でもそのような「ズレ」を解消する必要に迫られたり、「ズレ」を認めようと努めたりすることになりますが、そういった「ズレ」は、自分の考え方や価値観を柔軟にし、能力を高めるつまり自分を成長させる大きなチャンスでもあります。なるべく問題のないように先手を打つように努めるべきですが、やむ負えず、問題が起こってしまうこともあります。そのときには毅然と立ち向かってください。しかし、本当に危険な場合には、逃げ出すことも重要です。</p> <p>あとは、留学を精一杯楽しんでください。私はそうして、留学先での計画を立てる思いや熱い志や日々を大事にする生き方が、日本でもまたその他の場所でも同じように追求できるものであるということを理解しました。</p> <p>最後に、トルコはまだ日本人にあまり注目されていない「穴場」な留学先です。物価も安く、豊かな自然と文化があり、いくつもの問題を抱えつつも力強く活気のある場所がトルコという国です。ヨーロッパとアジアを結ぶ「異国」なトルコに頭からつま先までつかってみてください。驚きと喜びに満ちた生活を送れると思います。私の留學生活の詳細は、ブログ(タイトル:トルコ留學記 ~トルコに星は流れた~)にも書いてあります。お時間があればぜひご覧下さい。(参考 URL:<a href="http://toruko-ryuugaku.blogspot.jp/">http://toruko-ryuugaku.blogspot.jp/</a>)</p>
----------------	--

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業						
	授業	授業		授業	運動	運動	
午後	授業	授業	授業	授業	友人と談話	課外活動	自習
	授業	運動	授業	運動		課外活動	自習
夕刻	自習	読書	友人と談話	読書	買い物	クッキング	自習
夜	自習	自習	自習	自習	交流会・パーティー	自習	自習